

『ふるさと カレンダー』は 届きましたか？

昭和五十六年から始めた「ふるさとカレンダー」発行事業もみなさんのご協力により六回目を迎えました。

今年は、「ふるさと探訪」と題し、郷土出身の画家が残した作品を写真におさめカレンダーに編集しました。

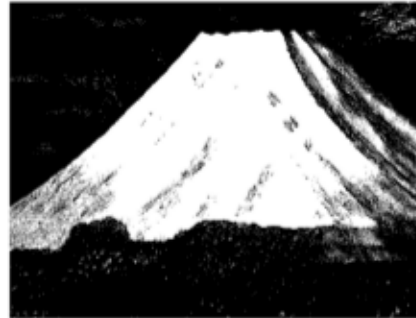
これらの作品は、市内に「模

カレンダー編集にあたり次の方々から協力をいただきました。ありがとうございます。

渡辺福家氏……十日市場
曾根 寛氏……上谷四丁目
井上敏雄氏……小形山
天野 茂氏……境
村田好雄氏……中央二丁目
石井 栄氏……中央三丁目
小池利一氏……中央四丁目
奈良 弁氏……中央四丁目
谷内秀春氏……与繩上手
清水 寛氏……朝日馬場

絵「屏風絵」「掛軸」として残り、本市の文化と歴史を後世に伝える貴重な宝物として大切に保存されています。

なお画家の簡略な紹介はカレンダーの表紙にあります。詳しくは広報で紹介していきます。



「ふるさとカレンダー」

画家——曾根桂樹

若いころから絵が好きで、富士山麓電鉄に勤務しながら絵の勉強をつづけ電車内の広告ポスターなどを描いていた。

しかし、画技は我流にすぎず納得できないため、当時谷村町に住んでいた画家、田中蘭谷に師事し、水墨画の基本から出直した。後に、東京で

本格的に画道を学んだ。

昭和二十四年の院展で初入選をはたし以来入選を重ね、昭和四十二年院展入選作「林中」を市制十五周年のお祝いとして、市役所に寄贈した。

「林中」は上谷地内の金山神社境内の杉木立を描いたもので、杉の木はだを赤や黄の絵の具で大胆に描いた大作。絵は現在文化会館四階ロビーに展示されている。

昭和四十四年八王子市子安町へ移転、アトリエを設け、依頼に応じ作画をつづけていたが、昭和四十八年一月二十三日、七十五歳で八人の子供にみとられながらその生涯を閉じた。

豆知識 郷土の画家

城下町として栄えた谷村及びその近在を訪れた画家や文人の名は多く聞かれますが、本市出身の画家は意外に少ない。

生涯をその道ひとすじに職業として生活した者は、紀州家に抱えられた旭岳麟と、滝和亭門下の秀才米山朴庵の二人である。

谷村を中心に絵甲斐絹がさかんなころ、その下絵を描きながら画家として精進したものに五十嵐城南と田中蘭谷があり、学校教師、鉄道員として勤務しながら面に親しみ、退職後本格的に努力した曾根桂樹、病氣療養のため妻の実

家に居住して他界された藤井露郷などであるが、それぞれ師は異なるが、当時江戸第一の大家と称せられた谷文晁（一七六三—一八四〇）系に属している。

それぞれ生活の場において苦勞があり、現在立派な作品が多く残されているが共通していることは、人物の温良さと時にあつての凄まじい気力は天性のものであつた。

才能を十分にひそめた者の芸術に対する確信は当然あつたであろうが、しかし、必ずしも好運に恵まれた一生ではなかったようである。

（都留の今昔より）

不用犬・猫巡回収集日程表（1月8日）

◎猫は麻袋等へ入れて出して下さい。
※次回は2月12日です。

地区	収 集 場 所	時 間
禾 生	田 野 倉 駅 入 口	9 : 40 ~ 9 : 45
	旧 禾 生 第二小前	9 : 45 ~ 9 : 50
	禾 生 出張所前	9 : 55 ~ 10 : 00
盛 里	旧 与 繩 小 入 口	10 : 05 ~ 10 : 10
	盛 里 出張所前	10 : 15 ~ 10 : 20
	曾 雄 公民館前	10 : 25 ~ 10 : 30
三 吉	下 戸 沢 清 水 場	10 : 45 ~ 10 : 50
	谷 村 第二小前	10 : 55 ~ 11 : 00
開 地	緑 町 公民館前	11 : 05 ~ 11 : 10
	中 小 野 公民館前	11 : 15 ~ 11 : 20
	細 野 杉 本 商店前	11 : 25 ~ 11 : 30
東 桂	十日市場公民館前	1 : 00 ~ 1 : 05
	東 桂 出張所前	1 : 10 ~ 1 : 15
	境 公 民 館 前	1 : 20 ~ 1 : 25
谷 村	上 町 自治会館前	1 : 30 ~ 1 : 35
	市 役 所 入 口	1 : 40 ~ 1 : 45
	深 田 水 神 宮 前	1 : 50 ~ 1 : 55
	道 生 堀 バス 停 前	2 : 00 ~ 2 : 05
宝	用 津 院 入 口	2 : 10 ~ 2 : 15
	宝 出 張 所 前	2 : 20 ~ 2 : 25
	上 大 幡 公民館前	2 : 30 ~ 2 : 35